

— より美しい生活環境の創造と、豊かな未来をめざして —
西鉄シー・イーコンサルタント 株式会社



所在地：〒815-0033 福岡市南区大橋2丁目8番1号
TEL : 092-511-2441
FAX : 092-511-2461
URL : http://www.ncec.co.jp/
従業員：58名
設立：1973年
代表者：代表取締役社長 本木正之



西鉄春闘駅伝



創立30周年記念祝賀会



慰安旅行(宇佐神宮)



国道322号バイパス 長野高架橋



耳納大橋



天神大牟田線直上高架工事



筑豊緑地歩道橋



長崎市センターモール計画



博多駅ペDESTリンデッキ(一期工事完成)



博多駅 夜景ライトアップ(完成予想)



南九州西回り自動車道 市来インター

経営

当社は西鉄興産(株)コンサルタント事業部から分離独立し、建設コンサルタント「西鉄シー・イーコンサルタント(株)」として1973年に設立されました。

設立以来、西鉄グループ企業約80社の中の建設部門における頭脳的存在として、コンサルタント業務を通じて生活資本の充実と豊かな環境の創造を目指し、九州一円において幅広い活躍を続けています。

技術と実績

・ **鉄道事業**

西日本鉄道の基幹部門である鉄道事業の主線、天神大牟田線は、九州の政治・経済・文化の中心地福岡(天神)を起点に二日市、久留米、柳川などの諸都市を經由して、終点大牟田までの74.8キロを福岡県民の足として約60分で結んでいます。

ただ、この天神大牟田線は、朝・タラッシュ時には特に周辺地域の渋滞を引き起こす要因とも考えられ、円滑な交通の確保や市街地の分断解消が求められてきました。

その中で当社は、これまで培ってきた技術力を駆使して、1980年代から西鉄福岡～西鉄平尾間(約1.7キロ)、西鉄久留米～津福間(約2.0キロ)における高

架化の計画・調査・設計に携わってきました。そして現在、2021年完成をめざし雑餉隈～下大利間(約5.2キロ)の高架事業が進められており、当社は西鉄グループのシンクタンクとして、直上高架方式や仮線方式などに最新の技術力を用い、この事業推進にも大きく寄与しています。又、既設高架構造物については、お客様の“安全”と“あんしん”を守るべく日々点検、補修等にも努めています。

・ **公共事業**

現在、当社では鋼構造及びコンクリート、道路、河川・砂防及び海岸・海洋、土質及び基礎、鉄道、下水道の6部門に登録し、本社関連とは別に九州地方整備局管内の事務所及び福岡県、佐賀県、更に周辺市町村から受注しています。

【**道路部門**】

道路関連では、九州西側の主要都市を結ぶ高規格幹線道路(南九州西回り自動車道)の内、日奈久芦北道路・芦北出水道路・川内隈之城道路等での概略設計から実施設計に至るまで多くの区間を受注しています。現在供用開始区間も順次延伸しており、全線開通が待ち遠しいところです。

【**河川部門**】

北部九州には、全国でも稀な高含水比を有する有

明粘土という特殊な軟弱地盤が存在し、九州を代表する筑後川、遠賀川、六角川等といった河川ではこれらの対策に悩まされています。当社はこれらの河川の堤防改築や、河川構造物の計画・設計業務に携わっており、河川環境の保全や、治水施設の整備や維持管理に貢献しています。

【**鋼構造及びコンクリート部門**】

博多駅前広場に当社設計の「ペDESTリンデッキ」がお目見えしました。

2011年3月の九州新幹線鹿児島ルート全線開通、新博多駅ビル開業に合わせ、新駅ビルに隣接する九州最大級のバスターミナル「福岡交通センター」が全面改装されました。これに伴い、これらのビルの2階部分を直結させるため『九州の交通新時代の幕開けに相応しい機能美と普遍性を追求した新生博多駅』のコンセプトを生かしつつ、景観に配慮したペDESTリンデッキ(歩行者専用回廊)を設計しました。この一期工事に引き続き、2011年度完成を目指し通路延伸設計を実施中であり、完成すれば博多駅を訪れる観光客や、買い物客の皆様の利便性に大きく貢献出来るものと期待しているところです。

九州・博多へ来られた折には、是非ご利用してみてください。

新規事業への取り組み

【**点検技術**】

近年、高度経済成長期に建設された橋梁等のインフラ構造物について「長寿命化計画」が進められており、このための点検業務が多数発注されています。当社では、これまで高所作業車、点検車や吊り足場が必要であった構造物の点検に対し、離れた場所からでも測定・点検が可能な計測システムを導入することにより、調査員の安全性、時間的制約、経済上の問題等の障害を取り除き、維持管理のためのスピーディな点検業務に取り組んでいます。

【**ITS技術**】

現在当社では、日本屈指のバス運行台数を誇る西日本鉄道本社のバスプローブデータを交通情報として活用出来ないかと考えています。これらのバスプローブデータを利用して解析する事により、交通変動状況を時系列に、的確に、リアルタイムに把握する事が可能であり、特定区間の旅行時間の分布、渋滞のピーク、渋滞継続時間等、道路管理者や一般交通利用者への有効な運転情報を提供出来る様になるものと考えています。

(文：設計第三部 井上陽夫)